

「さんのもり文庫」 本を真ん中にした 集いの場づくり

.....産の森学舎【福岡県糸島市】



団体設立経緯

設立年月 2014年11月
メンバー数 4人
代表者名 大松 康(おおまつ・やすし)
連絡先	〒819-1631 福岡県糸島市二丈福井2254
電話	090-9954-2587
メールアドレス	sannomorigakusha@gmail.com
ホームページ	http://www.sannomori.org
＜団体のミッション＞	
私たち	は、多様な学びの場の一つとして、子どもが楽しく自分らしく学ぶフリースクールを運営しています。
また、誰もが楽しく学び芸術文化に出会える地域の拠点として、文庫活動、ワークショップなどを行っています。	

子どもにとって、学ぶとは何か、生きるとは何か…子育てをしていく中で改めて考えることが多く、友人間で話していました。その中で、「くらし」と「あそび」と「学び」をひとつつながりで見つめ直し、自然の中で体験や表現、対話を大切にした学びを実現したいという思いに至り、多様な子どもたちが自分らしく学べるような場として、2015年4月、フリースクール「産の森学舎」を設立しました。

地域概要

福岡県西端に位置する糸島市は、海・山・川など豊かな自然に恵まれた地域です。新鮮な農水産物が豊富で、こだわりの飲食店や工房も多く、福岡市にも近いため観光地として注目されています。しかし、少子高齢化、文化資本の不足など、地方特有の課題もあります。産の森学舎のある二丈佐波地区は市内でも高齢化の進んだ地域です。古くからの伝統行事を守り住民同士の繋がりが固い一方で、移住者を歓迎してくれる温かい風土があります。

活動に至った背景や理由

フリースクールの活動が広まるうちに、周囲から「入校は出来ないが、このような場所で子どもを過ごさせたい」という声が上がってきました。私たちも、より多くの子どもたちや幅広い世代の方と、学ぶ楽しさや芸術文化に触れる機会を共有したいと考えるようになりました。また、文化施設や芸術体験の機会が少ないこの地域だからこそ、本を一つの材料として多様な価値観と出会う場を定期的に開けたらと思い、2015年11月より毎月、一般向けにワークショップと文庫を開催してきました。

活動内容と成果

産の森学舎は築60年の牛小屋(納屋)の2階にあります。スタッフがコツコツと少しづつ改修をし、木の床に漆喰の壁、立派な梁の残る空間になっています。また、周囲は自然が豊かなため、自然の中で身体を動かすことができ、様々な過ごし方ができるようになっています。

フリースクール事業に加えて、地域に開かれた学びと文化の拠点として活動を始め、誰でも自由に本を読める「さんのもり文庫」を毎月第一土日に開いていましたが、助成決定の際にいただいたアドバイスにより、文庫開催を第一・第二土日の4日間に増やしました。近頃は土日に公立小学校の行事が入ることも多く、地域柄イベントも多く開催されているので、日数を増やしてよかったです。また、夜19時まで開いている日には仕事を終えた方が立ち寄って下さることもあり、時間の幅が利用者の幅にもつながっているようです。

「さんのもり文庫」の大きな魅力の一つは「ひとはこ本棚」です。毎月数名の方にお気に入りの本を木箱一箱分お借りして展示しています。小学生、農家、音楽家、主婦、お菓子屋、研究者など…その人の興味や専門が表れる選書で、毎回新たな世界との出会いがあります。図書館と違ってリラックスして過ごせる場所なので、本を読んだ感想やそこから広がる話題などで盛り上がることもあります。子どもに本を読み聞かせするうちに他の子も集まって来るなど、皆で本を楽しむ雰囲気が生まれています。

また、「さんのもり文庫」に来る人々は、本を読むだけでなく思い思いの楽しみ方をしています。裏山で遊ぶ、広場で駆け回る、生きものと触れ合う、大工仕事をする、カードゲームをする、お茶を飲む、おしゃべりを楽しむなど…それぞれが寛ぎ楽しめる場としても活用されています。本を読み、少し疲れたら別のことをして、また本を読みに帰ってくる、そんなゆったりとした楽しみ方をしている人も多くいます。



寒さに耐える冬から陽だまりの冬へ

産の森学舎は築60年の納屋を利用しているため、初めて来られた方もなぜか懐かしい気持ちになり長居したくなるとよく言われますが、実は防寒が不十分で隙間風が厳しく、冬は寒さに耐えながら本を読んでもらうことになっていました。

そこで今回の助成活動では、冬でも暖かく快適に過ごしてもらえるようにしたいと、まず隙間風を防ぐことから始めました。壁の隙間や梁と壁との間などを木材や土壁などで雰囲気を損なわないよう細かな手作業で進めました。随分改善はされました、構造上完全にふさぎれないところもあり、古い建物ならではの永遠の課題として取り組んでいくことになりました。

そして一番大きな取組として、室内と周囲の自然とがつながる縁側のような場所をつくるため、ウッドデッキを作りました。若手の大工さんに講師をお願いし、スタッフ、フリースクール生徒の保護者も参加してのワークショップ形式の製作でした。

当初の計画では大工さんには講師として指導をお願いし、自分たちで作ってみたいと思っていましたが、やはり多くの人が乗るものなので頑丈に安全に作る必要があるため、組み上げは大工さんにお願いをし、私たちはサポートとして最後まで関わらせていただくという形に軌道修正しました。

木材にほぞを切ったりする加工の段階は、大工さんの技を間近に見ながら一緒に作業しました。防水塗料を塗る作業は子どもも参加することができました。また、目の前でどんどん組み上がっていく過程を見た子どもたちは感動し、大人も子どもも非常に良い経験をさせてもらいました。

30代の大工さんが伝統工法できっちりと仕事をされる姿はとても素晴らしい、私たちの文化を支えてきたこの技術と職人が受け継がれていく必要性を感じました。そのことも、文庫に訪れた方にもウッドデッキと共に伝えていきたいと思っています。

出来上がったウッドデッキは冬でも陽当たりがよく、今までとは打って変わって温かな時間を過ごすことが出来るようになりました。また、外へ広がりが出来たことで室内までも明るく開放的になった印象があり、新たな「居場所」として既に定着しています。文庫を訪れた方は、裏山の自然を眺め気持ちよさそうに過ごしてくださっています。持ってきたお弁当を広げたり、ひなたぼっこをしながら本を読む方もいます。裏山がすぐ近くに感じられるようになります、鳥の巣箱を作って木にかけた子どももいます。場が整うこと、場が豊かになることで、人の動きも心も豊かになるのだと考えさせられました。そして、個々の楽しみ方とも人との交流もできるという両面があることが、この文庫活動とウッドデッキに共通する良さだと感じました。



蔵書の充実

文庫の要である蔵書も充実しました。前述した「ひとはこ本棚」とは別に、常設する「さんのもり文庫」の蔵書として、多分野にわたる書籍を購入しました。選書にあたっては図書館長を務めて来られた地域の方に助言をいただき、また、文庫で繋がりを得た各専門職の方にもご紹介いただくななどして、物語から自然科学、図鑑、料理、美術、あそびなど多岐にわたる書籍を購入することができました。

近所に図書館がない子どもたちも多い地域柄なので、身近に本がある環境、本によって出会ったものがあるという経験に少しでもつながればいいなと思います。



見やすく、使いやすい場づくり

「さんのもり文庫」は、ご自由にどうぞという雰囲気で、どの世代も迎え入れられるようにしたいと思っています。個々が好きなように過ごし、お気に入りの場所を見つけ、静かにもアクティブにも楽しむことができる懐の深さを持ちたいと思っています。

「ひとはこ本棚」の木箱を今回揃えた形で製作し、見やすい展示の仕方にも工夫をするようになりました。また、遊び道具や手仕事道具を誰もが自由に使えるようにしています。中でも他ではあまり経験できないこととして大工仕事は子どもたちに人気があります。

今回、大工道具の棚を整理し、子どもでも出したりしまったりがしやすいように工夫しました。釘や木材なども見やすく並べ、慣れない子には大人が教えサポートするようにしています。普段接している紙などの素材とは違い、木工は立体的であり技術も必要そのため、子どもたちにも新たな挑戦の良い機会となっています。

地域の広がり、世代の広がり

今回、ハード面でもソフト面でも充実を図った文庫活動は、より多くの方に利用していただけるよう、広報活動にも注力しました。ちらしを作成し、糸島市、福岡市の飲食

店に置いていただきました。また、「さんのもり文庫」専用のブログを立ち上げ、出展していただいた「ひとはこ本棚」の書籍リストのアーカイブと次回開催予定の周知に利用し始めました。

そのおかげもあり、糸島市内だけではなく福岡市からも来られる方が増え、また、さらに遠方からも訪れる方があつたりと、広がりが生まれました。

一方、地域住民の方には、地域の総会など集まりの際にお知らせをしたり、おたよりに掲載していただいたりしました。直接お声かけもしましたが、なかなか地域の方が遊びに来る場所として定着するところまでは至っていません。ただ、地域の皆さんは、子どもの声が賑やかになったと喜んで下さっている方が多く、人が集う場所が出来たということは定着してきていると感じています。

また、古い納屋がこうして生まれ変わって利用されると喜んで下さり、昔はこういう風に使っていたなど、改めて建物にまつわる話を聞かせて下さることもよくあります。文庫に遊びに来た方と地域の方とが、この建物を介して交流することが出来て、とても嬉しく思いました。



課題と解決策

今後の課題は、幅広い世代の利用を図ることです。幼稚・小学生とその親が一番多い利用層ですが、中高生、高齢者にも利用してもらえるような活動にしていきたいです。まずは来場のきっかけとなるように、「ひとはこ本棚」の出展者を、より多様な方にお願いし、関わる方のネットワークを繋いでいきたいと思います。また、様々な企画を立てていろいろな方に興味を持ってもらえるような取り組みをしていきます。本や芸術に触れる機会の少なかった方にとっては、ただ本があるというだけでは来場まで至らないようなので、映画の上映など気軽に参加したくなるような工夫が必要だと考えています。

施設面ではかなり充実してきていますが、納屋の2階にあるため高齢者には段差が多く上がりにくいとの声がありました。暖かい季節には外へも展開するなど、利用する側の視点に立った取り組みもしていきたいと思います。

今後の予定

2017年度は、新たに「オトナのさんのもり」と題して、大人向けの企画も毎月行う予定にしています。「学ぶ楽しさや、新しい世界が広がる楽しさ、芸術文化に触れる喜びを、大人も日常的に体験すること」をコンセプトに、産の森学舎の授業を大人向けにアレンジして開講したり、講演や上映会などを企画します。

子ども向けのワークショップや文庫活動はもちろん継続し、新しい学びと芸術文化の地域拠点として、活動を続けていきたいです。